

### 付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（奈良女子大学）

#### 1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

##### 大学回答欄

教育活動の質の維持のため、既設の組織の他、学長の下に「新型コロナウイルス感染症対策本部」が置かれ、各部局長が参画して課題を検討し、状況の変化に沿った迅速な対応を行うことを可能とした。また、求められる環境の整備のため、専門的な観点から技術的支援を行えるよう学長の下に「コロナ対策情報処理チーム」が結成され、学術情報センター、学務課、学生生活課の連携作業を行った。

前期当初に、「コロナ対策情報処理チーム」が、遠隔授業を実施するに当たって送信側と受信側の環境を調査し、ルーターやタブレットの貸し出しや、無償ツールの活用やWebex、Zoom、MS-Office365の機関契約、さらにはコロナ禍が要因となった学生への経済支援を行い、学びの環境整備に努めた。

状況が変化する中での順次の取り組みではあったが、学年暦を再考し、前期の授業は、4月に授業のガイダンスやオンデマンド開講、5月は遠隔授業のみ、6月からは一部実験実習等を対面で開始した。また後期は、三密を避け、感染予防の方策を強化し、遠隔授業を取り入れながら4割程度の授業を対面で実施した。

FD推進委員会などから、学生・教員へのアンケート調査を複数回実施し、結果を全教員に提供し、授業提供の工夫、遠隔授業の課題解決に当たった。また、学生アンケートより、情報提供の一元化が強く望まれたこともあり、全ての授業科目の実施形態、情報提供をWeb上で共有するとともに、双方向の授業を補完するため、全教員が既設のポートフォリオシステム（manaba folio）を活用することを強く推進した。そのほか、これまで印刷物等で提供していた成績通知や履修登録者情報をWeb上で確認できるようにするなど、手続きの見直しも含め、利便性を高める方策を講じた。授業の実施については、文部科学省通知内容を教員に周知徹底し、遠隔授業の実施方法の例を提供して講習する他、受講学生のアンケート調査の結果を速やかにフィードバックし、FD活動に努めた。

文部科学省からの通知に基づき、教育実習などの各種学外実習に備えてガイドラインを定め、学生に体温・体調・外出行動等の記録を指示し、受入れ機関の要請に応じて情報提供を行うことも申合せ、実習を実施した。

対面で授業を行うため、マスクの着用を義務付け、教室の収容人数を5割程度に抑え、付番シールで着席する場所を明示し、教卓にはアクリル板を設置した。対面授業毎に、担当教員には、出席票（着席番号付記）の回収・実施状況の報告を義務づけた。また、学生・教職員のキャンパス入構時には体温申告もしくは体温チェックを徹底し、健康管理への意識付けを促した。同日に対面とオンラインの授業を受講する学生がいることを鑑み、Wi-Fi環境の整備を進め、オンライン授業はすべて教室を確保した。利用する教室は、常に換気を行い、アルコール消毒液を各教室に設置するとともに、定期的な消毒作業を実施した。また、学生個人個人にアルコール消毒液（詰め替え用）を配付し、自身が利用した什器類を消毒することを徹底した。このような対策を講じ、クラスター発生による授業の中断などの事案が発生することを予防した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

#### 大学回答欄

生活支援として、新型コロナウイルス感染症により日々の生活に困っている学生を支援することを目的とする「なでしこ基金緊急学生生活支援特定基金」を設立し、寄附を募った。また、寄附金を原資とした学生への支援方策「奈良女子大学なでしこサポート制度」を策定し、各種支援を実施してきた。

学習支援として、来学が難しい学生への図書館所蔵資料の複写物の自宅送付について送料の大学負担及び郵送による図書館所蔵資料の貸出を行っている。また、遠隔授業の実施に伴い、Microsoft365無償版アカウントの取得、ルーターの無料貸出及びポイント制プリンタの使用上限の引き上げを行っている。